

世界へはばたけ都留の子供たち

このシリーズは、昨年四月のヘンダーソンビル公式訪問団来市をきっかけに、市民の皆さんの国際化に対する考え方の一助になればと始めたのですが、今回は、最終回として、現在もとも都留市民と交流を深めているジェイムス・インク先生に意見・感想を述べていただきました。

都留市はたいへん寒いところですが、七ヶ月間を過して私が強く

感じていることは、職場や日常生活において、皆さんが私を温かく見守ってくれ、自然な状態で受け入れてくれていることです。まだまだ皆さんに仲間として受け入れられてはもらえないかも知れませんが初級英会話教室などを通じて、ようやく市民として認められつつあるように思っています。また、先日旅行をした時、旅先で感じたことは、帰るところは都留市だという気持ちで、ここが故郷のように思っています。

現在中学校を巡回指導している英語教育については、もちろん各学年やクラスによってレベルの違いはありますが、読み、書き、会話のレベルにもそれぞれ違いがあります。英文の読解力については、現在使っている教科書で十分だと思いますが、聞く方になると全く個人差があります。ある生徒はと

ても鋭く、注意深く、自然に聴きとることができですが、ある生徒にとつては英語を聞くだけでショックを受け動転してしまう子もいます。私はどのようにしてそういったショックから子供達を防いでいくか考えてやらなければなりません。会話については、やはり個人差もありますが、主に中学一年生の方が上手に音感やアクセントを覚えやすく、苦勞もなく受け入れ、うまく真似ることが出来ます。

三年生については、特に受験対策で文法・和訳・読解力を必要としますので、練習問題などの消化に時間がかかりますが、それは将来のことを考えると大事なことで、すから私は必要なことと思います。また、高校受験の中に英語のヒアリングを取り入れる学校が多くなってきました。三年生はその対応もしなければなりません、会話の方は逆に時間が足りなくなっていると思います。私にとつては、まだ受験に程遠い、入学して間もない一年生がやはり一番順応しやすい年齢であり、受け入れやすいと思います。英語でする連想ゲームなど取り入れながら、英単語を想像し、口に出す。またスペルも考えるということが自然に英語を応用していく上で大事な要素だと思います。

日本とアメリカの学校を比較してみると、いくつか違った点が見られます。例えば制服の着用、坊主頭、教室の中では給食班、清掃班などの存在があります。教員と生徒の接し方も日本の方がより強い結びつきがあると思います。学校でのクラブ活動については、英語指導助手の中にも、生徒の時間を必要以上に取り過ぎる面があるとする意見もあります。土曜日、日曜日まで拘束することは、自分の時間を持つことができないのではないのでしょうか。私自身はクラブ活動を見たり、自分で参加したりしています。生徒はクラブ活動についてとても真剣に取り組んでおり、とても大事にしています。ただアメリカ人として、生徒が五時以後までクラブ活動を毎日することについては、疑問に思うことでもあります。その価値については認めます。クラブ活動も学生生活の一部であり、生徒同志の人間関係、先輩後輩関係を学ぶ点でそれなりに重要な部分と解釈しています。

アメリカでは、スポーツクラブがよく活動しています。その他の文化クラブについては週に一回程度の状態です。主に高校生ですが、中には中学生も授業後にはアルバイトをする生徒が多いです。それは仕事に関する経験を多く持ち、将来に役立たせようとする意図からです。

四月の新学期からは、現

在の一、二年生全員が私のことを知っており授業の仕方にも体験しています。小学六年生は、新学期の最初から一緒に授業に取り組むことが出来るので今から期待しています。また生徒に希望があれば英会話クラブなども作っていきたいと考えています。形式的な授業での会話と違った楽しい雰囲気での英会話ができると思います。教科書以外の教材を使ったりすることも興味を持ってくれるんじゃないでしょうか。生徒の皆さんには、出来るだけ二ヶ国語放送や映画、英語のニュースなど分からなくても聞いてくれれば良いと思っています。

国際交流については、今までは経済的な分野がほとんどだったと思います。しかし、現在のアメリカ人は日本についてたいへん興味を持ってしています。日本文化、社会の組織的な構造、芸術、日本文学、教育などのあらゆる分野で興味がある

あります。私はメンフィス市、テネシー州、アメリカ合衆国、西洋文化を代表して都留市に来たんだという気持ちを持っています。商店で買物をしている時、通勤途中や道で会った時、カラオケバーでテネシーワルツを歌ってくれと頼まれた時、そんな日常生活の中で、交流していくことに私の使命があると思っています。とにかく人間と人間のつながりが一番大事だと思います。私たち英語指導助手は今こうして滞在していますが、国際交流としてはまだまだ、その質の内容、深さともに人数が足りません。もっと多くの人達がお互いに訪問し合い友好関係を持つことが必要だと思います。都留市で行っている姉妹都市交流は、人と人が結びつく環境を作れることです。私は自分のできることとして、ペンフレンドを紹介し合うことを考えています。ヘンダーソンビルの友人と文通している生徒も何人かいますが、できるだけ多くの生徒にペンフレンドができればと思っています。そして、いつか総ての生徒に体験してほしいのは、一度は外国に出て、自分の目で確かめ体験することができれば良いと思います。そうすることによって英語だけではなく、どんな外国語でもいいですが、自分なりに言葉、文化を追求してみることが出来るでしょう。

とにかく都留市は、水もたいへんおいしくて、とても気に入ったふるさとです。

